PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

03-029352

(43) Date of publication of application: 07.02.1991

(51)Int.Cl.

No tranlation

H01L 23/29 C08G 59/62

H01L 23/31

(21)Application number: 01-163295

(71)Applicant: NITTO DENKO CORP

(22)Date of filing:

26.06.1989

(72)Inventor: SHIMIZU MASAHITO

YAMANAKA KAZUTO

ADACHI JUNICHI

ITO TATSUSHI

NAGASAWA TOKU

(54) SEMICONDUCTOR DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To enhance moisture-resistant reliability by executing a sealing operation by using an epoxy resin composition which contains a specific compound.

CONSTITUTION: A semiconductor element is sealed by using an epoxy resin composition which contains components A to C. As the components, A is an epoxy resin, B is a phenolic resin and C is a compound whose fundamental skelton is a phenol having an OH-group in an ortho position. The component A may be an epoxy compound which has two or more epoxy groups on an average in one molecule; the component B acts as a hardener of the epoxy resin and it is preferable to use a novolak-type phenolic resin. Thereby, moisture-resistant reliability can be enhanced.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of

oH in ortho

rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

```
ΑN
    1991:440086 CAPLUS
    115:40086
DN
    Entered STN: 27 Jul 1991
ED
    Epoxy resin-sealed semiconductor device and its sealing composition
ΤT
IN
    Shimizu, Masahito; Yamanaka, Kazuto; Adachi, Junichi; Ito, Tatsushi;
    Nagasawa, Toku
    Nitto Denko Corp., Japan
PΑ
    Jpn. Kokai Tokkyo Koho, 4 pp.
SO
    CODEN: JKXXAF
DТ
    Patent
LA
    Japanese
    ICM H01L023-29
IC
     ICS C08G059-62; H01L023-31
CC
    76-3 (Electric Phenomena)
FAN.CNT 1
                       KIND DATE APPLICATION NO. DATE
    PATENT NO.
                       ----
     ______
                              -----
                                          -----
                                                                 -----
    JP 03029352
                               19910207 JP 1989-163295 19890626 <--
                        A2
PΙ
PRAI JP 1989-163295
                               19890626
CLASS
               CLASS PATENT FAMILY CLASSIFICATION CODES
 PATENT NO.
 _____
                _____
 JP 03029352
               ICM
                       H01L023-29
                ICS
                       C08G059-62; H01L023-31
                IPCI
                       H01L0023-29 [ICM,5]; C08G0059-62 [ICS,5]; C08G0059-00
                       [ICS,5,C*]; H01L0023-31 [ICS,5]; H01L0023-28 [ICS,5,C*]
AΒ
    The semiconductor device is sealed with a resin composition containing an epoxy
     resin, a phenolic resin, and phenol derivs. having OH at their ortho
    position. The resin composition is also claimed. The device sealed with a composition containing cresol novolak epoxy resin, novolak phenolic resin, and
    pyrogallol gave high reliability at high humidity and temperature
     semiconductor device epoxy phenolic sealing
ST
     Semiconductor devices
IT
        (sealed with epoxy and phenolic resin, with reliability)
IT
     Phenolic resins, uses and miscellaneous
     RL: USES (Uses)
        (epoxy, novolak, semiconductor device sealed with, for reliability)
     Phenolic resins, uses and miscellaneous
IT
     RL: USES (Uses)
        (novolak, semiconductor device sealed with, for reliability)
TT
     Epoxy resins, uses and miscellaneous
     RL: USES (Uses)
        (phenolic, novolak, semiconductor device sealed with, for reliability)
     87-66-1, Pyrogallol 120-80-9, Catechol, uses and miscellaneous
IT
     149-91-7, Gallic acid, uses and miscellaneous
     RL: USES (Uses)
        (novolak resin composition containing, semiconductor device sealed with, for
       reliability)
```

DERWENT-ACC-NO:

1991-083603

DERWENT-WEEK:

199112

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE:

Semiconductor device with high moisture resistance sealed with compsn. contg. epoxy! resin, phenol! resin and cpd. contg. phenol! skeleton with orthoposition

hydroxyl gp.

PATENT-ASSIGNEE: NITTO DENKO CORP[NITL]

PRIORITY-DATA: 1989JP-0163295 (June 26, 1989)

PATENT-FAMILY:

 PUB-NO
 PUB-DATE
 LANGUAGE
 PAGES
 MAINIPC

 JP 03029352 A
 February 7, 1991
 N/A
 000
 N/A

APPLICATION-DATA:

 PUB-NO
 APPL-DESCRIPTOR
 APPL-NO
 APPL-DATE

 JP 03029352A
 N/A
 1989JP0163295
 June 26, 1989

INT-CL (IPC): C08G059/62, H01L023/29

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 03029352A

BASIC-ABSTRACT:

A semiconductor device is prepd. by sealing semiconductors with an epoxy resin compsn. comprising (A) epoxy resin, (B) phenol resin and (C)a cpd. contg. a main skeleton of phenol having an OH gp. at the eposition.

Pref. (A) has at least 2 epoxy gps. on average, and is pref. novolak type having an epoxy equiv. of 150-250 and a softening pt. of 60-110 deg.C; (B) acts as a hardener for (A) and has an OH equiv. of 80-180 and a softening pt. of 50-130 deg.C. The equiv. ratio of OH/epoxy gp. is 0.81.2; (C) is of formula (I) where R1 and/or R2 is-OH or -COOH and R3-R5 are each H or an organic gp. contg. C, O, S, N, halogen and P. (I)is, e.g., catechol, pyrogallol or gallic acid or their deriv.. (I) is used in amt. 0.-15wt.% of (A)+(B). The compsn. is blended opt. with a hardening accelerator, e.g., 2-methyl-imidazole, a filler, e.g., quartz glass powder, talc, etc., a releasing agent (e.g., stearic acid, palmitic acid, Zn stearate, Ca stearate, etc., and a flame-retarding agent, carnauba wax, montan wax, etc..

USE/ADVANTAGE - Due to the presence of (C), the compsn. has high and durable moisture resistance. The sealing achieves high reliability even when the device having upto 2 micron thick Al circuit on elements is exposed to high temp. and high humidity conditions. Used for sealing transistors, integrated circuits, large scale integrations by ceramic or plastic package.

TITLE-TERMS: SEMICONDUCTOR DEVICE HIGH MOIST RESISTANCE SEAL COMPOSITION CONTAIN POLYEPOXIDE RESIN POLYPHENOL RESIN COMPOUND CONTAIN POLYPHENOL SKELETON ORTHO POSITION HYDROXYL GROUP

DERWENT-CLASS: A21 A85 L03 U11

CPI-CODES: A05-A01E2; A05-C01B; A08-D; A12-E04; A12-E07C; L04-C20A;

EPI-CODES: U11-A07;

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 0122U; 0539S ; 0539U ; 1377U ; 1408U ; 1541U ; 1563U ; 5087U ; 5213U ; 5263U ; 5276U ; 5312U ; 5376U

平3-29352 ⑩公開特許公報(A)

®Int. Cl. ⁵

識別配号

庁内整理番号

❸公開 平成3年(1991)2月7日

H 01 L 23/29 59/62 C 08 G H 01 L 23/31

NJF

8416-4 J

H 01 L 23/30 6412-5F

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

69発明の名称

半導体装置

願 平1-163295 ②特

願 平1(1989)6月26日 22出

雅·人 @発 明 者 清 水 ф 人 者 Ш @発 明

進 達 者 @発 明

藤 達 志 者 伊 明 @発 徳 沢 長 個発 明 者

日東電工株式会社 勿出 願 人 征彦 個代 理 人

弁理士 西藤

日東電工株式会社内 大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号 大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号

大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号

日東電工株式会社内 日東電工株式会社内

日東電工株式会社内 大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号 日東電工株式会社内 大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号

大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号

細

1. 発明の名称

半導体装置

- 2. 特許請求の範囲
- (1) 下記の (A)~(C)成分を含有するエポ キシ樹脂組成物を用いて半導体素子を封止してな る半導体装置。
 - (A) エポキシ樹脂。
 - (B) フェノール樹脂。
 - (C) オルト位にOH基を有するフェノールを 基本骨格とする化合物。
- (C)成分が、カテコール,ピロガロール, 没食子酸からなる群から選ばれた少なくとも一つ の化合物である請求項(1)記載の半導体装置。
- (3) 下記の (A)~(C)成分を含有する半導 体封止用エポキシ樹脂組成物。
 - (A) エポキシ樹脂。
 - (B)フェノール樹脂。
 - (C)オルト位にOH基を有するフェノールを 基本骨格とする化合物。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、信頼性、特に耐湿信頼性に優れた 半導体装置に関するものである。

(従来の技術)

トランジスタ、IC、LSI等の半導体素子は 、通常、セラミツクパツケージもしくはプラスチ ツクパツケージ等により封止され半導体装置化さ れている。上記セラミツクパツケージは、構成材 料そのものが耐熱性を有し、しかも、透湿性が小 さいうえに中空パツケージであるため、耐熱性。 耐湿性に優れた封止が可能である。しかし、構成 材料が比較的高価であることと、量産性に劣る欠 点がある。したがつて、最近では、コスト,量産 性の観点からプラスチツクパツケージを用いた樹 脂封止が主流になつている。この種の樹脂封止に は、従来からエポキシ樹脂が使用されており、良 好な成績を収めている。しかしながら、半導体分 野の技術革新によつて集積度の向上とともに素子 サイズの大形化、配線の微細化が進み、パツケー ジも小形化、薄形化する傾向にあり、これに伴つ て封止材料に対してより以上の信頼性の向上が要望されている。

(発明が解決しようとする問題点)

上記信頼性のなかでも、特に、半導体装置のアルミニウム配線の腐食に起因する耐温信頼性の低下が問題にされている。

この発明は、このような事情に鑑みなされたもので、耐湿信頼性に優れた半導体装置の提供をその目的とする。

(問題点を解決するための手段)

上記の目的を達成するため、この発明の半導体 装置は、下記の(A)~(C)成分を含有するエポキシ樹脂組成物を用いて半導体素子を封止する という構成をとる。

- (A) エポキシ樹脂。
- (B) フエノール樹脂。
- (C) オルト位にOH基を有するフェノールを 基本骨格とする化合物。

(作用)

ボキシ樹脂も使用可能である。このなかで特に好適なのはフェノールノボラツク型エボキシ樹脂で、通常、エボキシ当量160~250、軟化点50~130℃のものが用いられ、クレゾールノボラツク型エボキシ樹脂としては、上記エボキシ当量170~230、軟化点60~110℃のものが一般に用いられる。

上記A成分のエボキシ樹脂とともに用いられる B成分のフェノール樹脂は、上記エボキシ樹脂の 硬化剤として作用するものであり、なかでもノボ ラツク型フェノール樹脂を用いるのが好適であり 、通常、水酸基当量が80~180、軟化点が5 0~130でのものを用いることが好ましい。

上記A成分のエポキシ樹脂とB成分のフエノール樹脂との配合比は、上記エポキシ樹脂中のエポキシ基1当量当たりフエノール樹脂中の水酸基が0.8~1.2当量となるように配合することが好適である。この当量比が1に近いほど好結果が得られる。

上記A成分およびB成分とともに用いられるC

すなわち、本発明者らは、使用により何ら弊客を生じず、しかも封止樹脂の耐湿性を向上させて 半導体装置のアルミニウム配線の腐食に起因する 耐湿信頓性を改善することを目的として一連の研究を重ねた。その結果、上記特定の化合物 (C成分)を用いると、所期の目的を達成しうることを 見出しこの発明に到達した。

この発明に用いるエポキシ樹脂組成物は、エポキシ樹脂(A成分)と、フェノール樹脂(B成分)と、上記特定の化合物(C成分)とを用いて得られるものであつて、通常、粉末状もしくはそれを打錠したタブレット状になつている。

上記エポキシ樹脂組成物のA成分となるエポキシ樹脂は、1分子中に平均2個以上のエポキシ基を有するエポキシ化合物であれば特に制限するものではない。すなわち、従来の半導体装置の封止樹脂の主流であるノボラツク型エポキシ樹脂、あるいはその他ピスフエノールAのジグリシジャエーテルやその多量体であるエピピス型エポキシ樹脂、脂環式エ

成分の特定の化合物は、オルト位にOH基を有するフェノールを基本骨格とする化合物であり、置換基にOH基、COOH基を有する下記の一般式で表される構造のものである。

「上記式において、R」およびR』のうち少なくとも一方はOH基もしくはCOOH基であり、R』、R』、R』はそれぞれ水素もしくは有機基(炭素、酸素、硫黄、窒素、ハロゲン、リン等より構成される化合物基)である。

例えば、カテコール、ピロガロール、没食子酸等およびこれらの単独もしくは2種以上から誘導される化合物等があげられる。これらは単独で用いてもよいし、また併用してもよい。上記C成分の配合量は、C成分中に存在する隣接した水酸基がA成分のエポキシ樹脂とB成分のフェノール樹脂の合計量に対して0.1~5重量%(以下「%」と略す)の範囲に設定するのが好ましい。すなわち

、上記C成分の配合量が10%を上回ると得られるエポキシ樹脂組成物において耐湿性以外の諸特性に悪影響がみられ、1%を下回ると耐湿性の向上効果がみられなくなるからである。

また、この発明に用いるエポキシ樹脂組成物には、必要に応じて上記A~C成分以外に、硬化促進剤、充填剤、離型剤、難燃剤等を用いることができる。

上記硬化促進剤としては、フェノール硬化エポキシ樹脂の硬化反応の触媒となるものは全て用いることができ、例えば、2-メチルイミダゾール、2,4,6-トリ(ジメチルアミノメチル)フェノール、1,8-ジアザービシクロ(5,4,0)ウンデセン-7、トリフェニルホスフィン等をあげることができる。

上記充塡剤としては、石英ガラス粉末, タルク 粉末等をあげることができる。

また、離型剤としては、従来公知のステアリン酸, パルミチン酸等の長額カルボン酸、ステアリン酸亜鉛, ステアリン酸カルシウム等の長額カル

ライブレンドまたは溶融ブンレドを行うことによ り製造することもできる。

このようなエポキシ樹脂組成物を用いての半導体の封止は特に限定するものではなく、例えばトランスファー成形等の公知の方法により行うことができる。

このようにして得られる半導体装置は、エポキシ問脂組成物中に含まれる特定の化合物 (C成分) の作用により、極めて優れた耐湿信頼性を備えている。

(発明の効果)

以上のように、この発明の半導体装置は、上記 C 成分の特定の化合物を含む特殊なエポキシ樹脂 組成物を用いて封止されており、その封止樹脂が 耐湿性に富んでいるため、優れた耐湿信頼性を有 している。特に、上記特殊なエポキシ樹脂組を でいる。特に、上記特殊なエポキシ樹脂組配物 による封止により、素子上のアルミニウム配線が 2 μα 以下の特殊な半導体装置を高温高湿下の しい条件下に関しても高い信頼性が得られるよう になり、これが大きな特徴である。 ポン酸の金属塩、カルナバワツクス,モンタンワ ックス等のワツクス類等を用いることができる。

なお、上記硬化促進剤および離型剤として例示 した化合物は、単独でもしくは併せて用いること ができる。

この発明に用いるエポキシ樹脂組成物は、例えばつぎのようにして製造することができる。すなわち、エポキシ樹脂(A成分)とフェノール樹脂(B成分)と特定の化合物(C成分)とを配合し、必要に応じてその他の添加剤の硬化促進剤、充填剤、難型剤等を常法に準じてドライブレンド法。または溶融プレンド法を適宜採用し混合、混練処理を行う そして、必要に応じて打錠するという一連の工程により製造することができる。

なお、上記製造過程において、予めエポキシ樹脂 (A成分) もしくはフェノール樹脂 (B成分) と特定の化合物 (C成分) とを反応させて、実質的に芳香環に結合し、かつ隣接した水酸基を2個以上有するように存在させて、これを冷却して粉砕した。そして、これに残りの成分を配合してド

つぎに、実施例について比較例と併せて説明する。

(実施例1~6、比較例1,2)

後記の第1表に示す原料を同表に示す割合で配合し、この配合物をミキシングロール機(ロール温度100℃)で10分間溶融混練を行い、冷却固化後粉砕して目的とする微粉末状のエポキシ樹脂組成物を得た。

(実施例7)

予めノボラツク型フェノール樹脂とピロガロールとをホルムアルデヒドを介し常法にしたがつて反応生成物を得た。それ以外は実施例1と同様にして目的とする微粉末状のエポキシ樹脂組成物を得た。

(以下余白)

つぎに、上記実施例および比較例により得られ 0.5 0.5 (海南部) 100 6 6 3 8 2 た微粉末状のエポキシ樹脂組成物を用い、半導体 比较好 901 素子をトランスフアーモールドすることにより半 230 98 8 160 2 導体装置を得た。このようにして得られた半導体 . S 0.5 061 130 100 2 0 0 8 8 9 装置について、室温下での曲げ試験。ガラス転移 霯 0.5 0.5 温度 (Tg) を測定し、さらに121℃×2気圧 96 160 S 90 8 20 10 0 ~ の条件下で10Vの電荷を印加してプレツシャー 0.5 0.5 385 0 110 130 0 100 190 9 20 クツカーバイアステスト (PCBTテスト)を行 0.5 0.5 い、その結果を下記の第2表に示した。 385 0 S 5 6 6 6 6 6 100 190 提 (以下余白) . S . . 160 84 0 385 09 2 8 230 90 385 0.5 0.5

0

0.5 0.5 0

2-メチルイミダゾール

カルナパワツクス

谷間シンケ

0

S 0

パロガロール

カナコール

本を有じる 手を有じる 手を存むでする 手を存むを

设食子数

飲化点(て) 水酸卷当量

160 2

ポラツク型フエノール構

230 8 8 99 2

エボキシ当職

8 60

飲化点(て)

100

8 230

割

ボンーランギルシクトボルシクトボルシクトボルシクトル

クエ油

150 ₽K

> 第2表の結果から、実施例品は、特にPCBT テストにおける腐食寿命が著しく長くなつており 、比較例品に比べて耐湿信頼性が向上しているこ とがわかる。

> > 特許出願人 日東電工株式会社 代理人 弁理士 西 藤 征 彦

比较例	2	1430	12.5	165	380	370
	1	1440	13.0	161	400	420
\$5	7	1420	13.0	164	1500	1200
	9	1450	13.1	163	1000 1100	1000
搊	5	1400	13.0 12.5 13.4 12.7 12.8 13.1 13.0 13.0 12.5	165	1000	810 1100 1000 1000 1000 1200
	4	1410	12.7	160	900	1000
	3	1420	13.4	161	1000	1100
衹	2	1400	12.5	163	800	810
	-	1440	13.0	160	1200	1000
		(1 2 /	(, m	(a)	區	る
		曲げ弾性事(kg/ma*) 1440 1400 1420 1410 1400 1450 1420	田が松岡 (kg/目)	ガラス転移温度	PCBTテスト におけるMTT F (hr)	